

吹田市の課題・ニーズについて

作成日	令和 4 年 9 月 30 日	作成者氏名	石谷 旬也	担当地域	JR 以南
-----	-----------------	-------	-------	------	-------

1. 現状（どのような状況か具体的な内容を記入）

JR 以南地区ではセンター開所以来、精神障がいの方からの相談が、全体の半数近くを占める状況が続いており、JR 以南地区の地域特性だと考えられます。

そこから精神障がいのある多くの方が地域の中で困難に直面している状況が推測されるものの、これまでの地域会議では支援者からの話が中心であり、当事者自身の困り事を把握・共有出来ていないのが現状です。地域課題を解決していくために、まずは当事者自身が抱える困り事を地域全体で把握・共有する必要があると思われます。

2. これまでの経過・取組み（検討内容や会議開催回数等の詳細を記入）

第一回地域会議：R4 年 8 月 1 日（月） 13 時～15 時

テーマ：【精神障がいのある方が地域で生活するうえで困っていること】

参加機関：サポートいちえ、以和貴ホーム、吹田市社会福祉協議会、地域活動支援センターりあん、障がい福祉室、内本町障がい者相談支援センター

当事者自身の困り事を地域として把握できていないという現状をうけて、まずはどうすれば当事者の困り事をキャッチすることが出来るかを検討しました。

これまでは計画相談員からの事例検討を主として地域会議を開催していましたが、当事者の生活に関わる多職種の支援者が参加することで、当事者が抱える困難さを多面的に捉えられるのではないかと考えました。

8 月 1 日に第一回目の地域会議を開催し、様々な職種の支援者がそれぞれの立場で捉えた当事者の困り事をグループワークという形で出し合い、さらにその困り事をカテゴリー分けすることで、この地域にどのような課題があるのかを共有することが出来たのではないかと感じます。

3. 課題（現状・経過・取組みの結果出てきた課題を具体的に記入）

抽出された課題のカテゴリー：①社会資源 ②障がいの理解 ③人材不足 ④経済 ⑤障がい特性 ⑥その他

今回の地域会議で精神障がいの方が抱える様々な課題を共有することが出来ました。それぞれの課題は上記の 6 つのカテゴリーに分けられました。しかし、多くの課題が一つのカテゴリーの問題ではなく、複数の要因が絡み合っていることが分かりました。

そして当事者自身が自分の障がい特性を理解しにくく、さらに精神障がいへの地域の理解も無いため、障がいをオープンにすることが出来ない。障がいをオープンに出来ないことで、支援者が介入することが出来ず、病状が悪化するなどの悪循環がおきています。

障がいをオープンに出来ないこと、しんどさ、辛さを理解してもらえないという点は精神障がいの方が抱える課題の特徴の一つだと思われます。次回以降の地域課題で、これらの課題に対して、地域としてどのような課題解決が出来るかを考えていきたいと思います。

吹田市の課題・ニーズについて

作成日	令和4年9月30日	作成者氏名	山本 達也	担当地域	片山・岸部
-----	-----------	-------	-------	------	-------

1. 現状（どのような状況か具体的な内容を記入）

メンタルヘルスに関する相談は、未治療や治療中断、ひきこもり、自殺・依存症・虐待・DV・ヤングケアラー・8050問題など複雑多様化しています。すぐに改善・解決しない場合もあり、長期的に関わり続ける必要があります。その中で精神症状が急変して危機的な状況に陥った時、ご本人やご家族、地域でお住まいの方が孤立したり、不安な状況が長期化する場合があります。孤独死となった場合もあります。

メンタルヘルスの不調や精神疾患は誰もが経験しうるものである事を鑑み、そのような時でも誰もが安心して自分らしく暮らすことができるよう、危機的な状況に陥った場合のサポートについて地域会議にて検討しました。

2. これまでの経過・取組み（検討内容や会議開催回数等の詳細を記入）

【第1回地域会議】 6月30日

<参加>精神科病院・訪問看護・計画相談・グループホーム・こども発達支援センター・社会福祉協議会・地域活動センターI型・障がい福祉室 計17名

<内容>事例検討→地域にあったらよい資源・サービスを検討。

【第1-②回地域会議】 9月6日

<参加>精神科病院・地域包括・生活困窮者自立支援センター・ぷらっとるーむ・保健所・障がい福祉室 計13名

<内容>参加機関事例の共有→地域で生活している住民として考える→誰もが安心した生活に向けて何が行えるかを検討。

3. 課題（現状・経過・取組みの結果出てきた課題を具体的に記入）

- ・相談窓口を分かりやすくする。
- ・断らない相談窓口。訪問支援。家族支援。
- ・重層的支援の視点。
- ・吹田にはたくさんの相談窓口がある。（高齢・児童・若者・生活困窮・男女・就労・障がい等）それら点である相談窓口が重層的に繋がり、面としてのネットワークを構築。多機関のチームによるサポート。
- ・実態調査。精神障がい者数、入退院、退院後の経過など。
- ・社会資源の見える化。
- ・今までの事例の振り返り。
- ・啓蒙・啓発。
- ・ナチュラルサポートをされている近隣住民の方の把握とメンタル面のサポート。
- ・少人数で話しや活動ができる場。

等のご意見をいただきました。

これらのご意見をもとに「誰もが安心して生活できるためのサポート」の構築に向けて継続して検討していきます。

吹田市の課題・ニーズについて

作成日	令和4年9月29日	作成者氏名	多喜 聖子	担当地域	豊津・江坂・南吹田
-----	-----------	-------	-------	------	-----------

1. 現状（どのような状況か具体的な内容を記入）

テーマ「母子支援に関わる課題等を検討」

・普段から母子関係の困り事や課題等に対する相談はどこにすればいいのか不明瞭な所が多く、各セクションの役割や支援力、支援方法等関係機関のネットワーク構築が必要である。

障がいを抱える両親と子どものいる世帯や精神疾患のシングルマザーの育児に対する不安等についての子育て支援のテーマを例に取り上げ、関係機関での意見交流を実施する。

2. これまでの経過・取組み（検討内容や会議開催回数等の詳細を記入）

第1回 R4.9.29 開催

福祉、医療、行政の立場から意見を出してもらい、ブレインストーミングの手法を用いて、事例における課題や支援の方法やあり方、対応できる社会資源等を洗い出し、各分野ごとに内容を取りまとめた。また、その内容に応じて各分野から感じることや支援の手法等を討議した。今回の意見を集約し、次回の地域会議において、より深く討議を行い、本地域の支援ネットワークの構築を図っていく。

3. 課題（現状・経過・取組みの結果出てきた課題を具体的に記入）

2事例から出てくる課題等の抽出を行い、統一的・一体的な各関係機関のネットワークの構築、分かりやすいマニュアルの作成をしたい。

1回目は、参加して下さった方々の顔の見える関係づくりということも目的のひとつで、事例検討ではなく、意見をたくさん出してもらおう。

今回抽出した意見を参考に福祉、医療、行政だけでは足りないサービスを地域でどのように支えていけるか今後検討していく予定。今年度にあと2回開催予定で煮詰めていきたい。

吹田市の課題・ニーズについて

作成日	令和4年9月29日	作成者氏名	仁木 恵美	担当地域	千里山・佐井寺
-----	-----------	-------	-------	------	---------

1. 現状（どのような状況か具体的な内容を記入）

千里山東・佐井寺地域包括支援センターの地域防災を考える地域ケア会議をきっかけに地域の災害時の連携会議に参加させていただくことになった。

吹田市では協定を結んだ民生・児童委員組織等の地域組織に災害時要援護者の名簿が渡されており、65歳以上独居高齢者等への見守り訪問が役割となっている。センター地域の自治会は名簿の提供を受けていない。障がい者相談支援センターにも名簿はなく、支援を必要とする障がい児者・難病患者とつながることができない状況にある。

また、地域のセンターとして地域住民や関係機関と少しずつ繋がりを形成しているが、障がい者等理解の促進のため、障がい児者や難病患者のことを知っていただけるような機会をもっとつくりたい。

2. これまでの経過・取組み（検討内容や会議開催回数等の詳細を記入）

5/10（火）所内会議 所内起案

5/31（火）班会議 地域会議の実施計画「避難所で3日間過ごす時に心配なこと」のアンケート調査を実施し調査報告、危機管理室と福祉総務室に講座依頼

6/20～7/22 調査期間【対象】障害福祉サービス利用者、支援学校児童、就学前障がい児施設

7/29（金）所内会議 アンケート結果データ共有 調査報告のまとめ方

8/5（金）班会議 地域会議案内方法と案内先確認・チラシ案・当日計画

9/2（金）所内会議 調査報告書PP確認

9/9（金）班会議 現地テスト日の備品確認

9/22（木）千里山コミセン多目的ホール現地テスト 当日計画、配布資料、分担確認

9/29（木）地域会議 当日参加者50名（会場33人・オンライン17人）

「避難所で3日間過ごす時に心配なこと」の当事者アンケートを実施し、118名の協力が得られた。避難することへの意識や避難所での心配ごとを把握し、まずは、当事者の思いや心配ごとを地域住民や関係機関に方に知っていただくことを主題においた地域会議を開催した。第1部では危機管理室（「吹田の防災」）福祉総務室（「災害時要援護者避難支援」）の講演で市と千里山・佐井寺地域の情報を共有し、第2部では主な障がいの説明を加えながら、アンケート調査の報告をおこなった。

3. 課題（現状・経過・取組みの結果出てきた課題を具体的に記入）

明らかになった課題は以下の4点。①個々の備え②避難のための準備③避難所での合理的配慮④備えや共助で解決が難しいことの把握と対応検討。環境や情報及び配慮、医療等の避難課題が明らかになった。今回のアンケートで30人の当事者からセンターと繋がりたいと意思表示していただいた。①②のとりくみで当事者と共に個別の避難について考えながら、地域での顔の見える関係作りにつなげていきたい。個別のとりくみの実情から、③や④にも活かしていけるように推進していく。参加者アンケートでは全ての回答者に調査報告についてよくわかった（当事者の思い）と回答いただけた。

吹田市の課題・ニーズについて

作成日	令和 4 年 9 月 30 日	作成者氏名	森 眞実	担当地域	千里ニュータウン・ 亥の子谷合同開催
-----	-----------------	-------	------	------	-----------------------

1. 現状（どのような状況か具体的な内容を記入）

①緒論

・ 2 センターのエリア内では、計画相談支援ならびに就労系サービスをはじめとした日中の通所先が、他エリアに比して圧倒的に不足していることが共通項として挙げられる。また、ともに従前の吹田市地域保健福祉センター跡地から「地域の相談窓口」を引き継いだ委託のセンターという背景があり、現場における問題意識は類似している

・ これらの顕在化した共通課題を紐解く中で、2 センターが一体的に運営し、課題抽出ならびに潜在ニーズの発掘に努めることで地域会議を活性化する一助とする

②. 運営

・ 委託契約期間（2019 年度～5 年間）残り 2 年を鑑み、この 2 年間は地域会議立上にかかる基盤整備の期間

= 地域会議（準備会）と位置づけ、2024 年度以降はそれぞれのセンターで地域会議を開催することを想定

・ 2 センター・障がい福祉室で地域会議にかかる事務局の役を担い、今後、準備会構成員等の意見も取り入れながら、事務局サイドと運営サイドで役割分担していくことをめざす

・ 合同での地域会議は年 2 回開催を基本とし、必要に応じ、各センターでも「地域会議」をおこなえることとする

③. 現状

・ 2 センター間合同で地域会議を開催する意義・意図を整理し、過去 4 回の会議（うち 2 回アンケート）を実施

・ 2 センターのエリア内にある 9 機関（13 名）から、地域会議をともに運営する構成員を選出

・ 9 月 20 日に第 1 回地域会議を開催。ネットワークづくりと連携を主眼とし、今後具体的な課題抽出に着手

2. これまでの経過・取組み（検討内容や会議開催回数等の詳細を記入）

* 5月13日 2センター打合せ会議#1

- ・地域会議の骨格づくりに向けて2センターで討議を開始
- ・5月16日アンケート#1 ⇒ 5月24日共有 / 5月24日アンケート#2 ⇒ 6月2日共有

* 6月6日 2センター打合せ会議#2

- ・過去2回のアンケート結果をもとに、2センター合同の地域会議の構図確定
- ・主軸：構成員とネットワーク・連携体制を築きつつ、課題抽出をおこなうというそのプロセスも大切にする
- ・構成員（計画相談支援事業所・日中活動支援事業所・放課後等デイサービス事業所・訪問看護・ヘルパー・地域包括支援センター・社会福祉協議会・SVとして大学教員）選出

* 7月5日 2センター打合せ会議#3

- ・構成員に参加打診→地域会議の意義と役割・参画依頼の説明（資料持参）
- ・構成員向けアンケート実施（会議の運営方法・地域特性・現場で感じる課題・話したいテーマ・制度でわかりにくい部分・あったらいいなと思うアイデアなどを問う）8月10日メ

* 8月25日 2センター打合せ会議#4

- ・構成員からファシリテーター選出し、2センターとともにアンケート結果を確認
- ・第1回地域会議について、その開催手法・内容・運営上の着目点などを整理
- ・第1回地域会議開催までに、構成員にアンケート結果をフィードバック

* 9月20日 第1回地域会議＜千里ニュータウン・亥の子谷 合同開催＞開催

- ・9機関（12名）と各センター（4名）・障がい福祉室（2名＋オブザーバー参加実習生含め3名）、18名参加
- ・事前アンケートからの要望をもとに、まずはお互いの役割・立場などを知るキックオフ会議の位置づけ

3. 課題（現状・経過・取組みの結果出てきた課題を具体的に記入）

①. 9月20日の第1回地域会議で確認できた内容

- ・ 構成員の役割・任期・参画方法と、ネットワーク体制・基盤づくりとして合同地域会議を開催する意義
- ・ 障がい福祉について話し合う場・より良い地域づくりに向けたひとつのツールとして地域会議を活用する
- ・ 課題抽出する過程において、連携・顔つなぎ・ネットワークづくりなど、理解を深める機会とする
- ・ 精神保健にかかる相談など、困難事例を検討・共有できる場として活用

②. 9月20日の第1回地域会議において出されたテーマ（課題）

- (1). 地域とのつながり・ネットワークづくり
- (2). 精神障がい者の支援における課題
- (3). 居場所づくり
- (4). 住まい
- (5). 親亡きあと問題

③. 今後に向けて

- ・ 第1回目に出された課題を焦点化するか、再度精査・協議するかを構成員とともに検討
- ・ 今後、検討する地域課題・スパン・テーマに応じた着地点・参加者・呼びかけの範囲・周知方法など検討
- ・ 当初の年2回予定を変更し、次回12月16日に第2回目を開催し、年度内に計3回の地域会議を開催
- ・ 事務局としての打合せ会議#5は10月21日を予定

④. 運営上の課題

- ・ 家族含めた当事者や一般参加者（難病・事業所・“興味のある人”が参加できる体制）の参画方法
- ・ スーパーバイザーの報償費
- ・ 会場の公用申請等事務手続き